

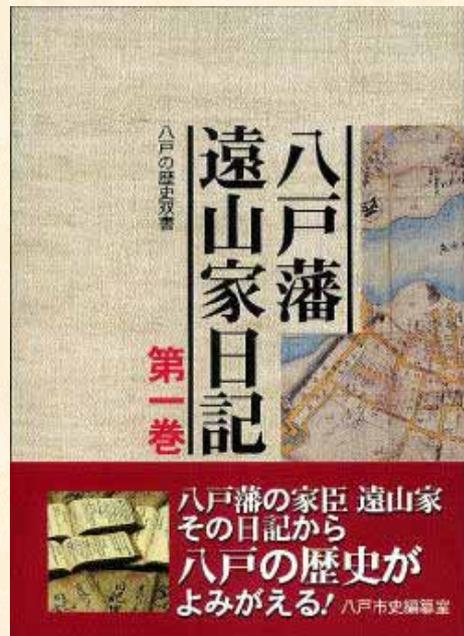
「八戸藩遠山家日記 第一巻」

八戸市文化財に指定されている「遠山家旧蔵本」。寛政4年(1792)～大正8年(1919)まで記された膨大な日記が残されています。その中で最初に記された寛政4年から18年分の日記が解読され、現代によみがえりました！

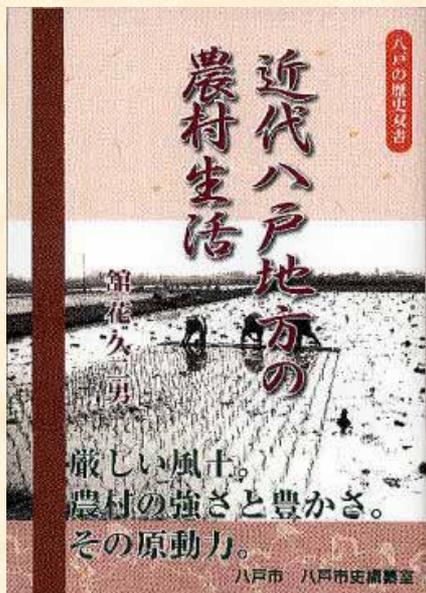
遠山家は2代八戸藩藩主直政の代に召し抱えられて以降、幕末に至るまで八戸藩を支えてきました。現存する日記は、遠山家7代目・庄右衛門から始まります。

日記には、武家の冠婚葬祭に関わる事柄をはじめ、当時の武家生活が詳細に記されています。寛政年間には八戸藩の財政悪化を反映し、家計のやりくりで苦心している様子が見られます。現在ほど医学が発達していなかった当時の記述には、病気にかかわる記事が多数見られます。

18年分の日記だけでも様々な、一つの武家のドラマが隠されているのです。



「近代八戸地方の農村生活」(館花久二男 著)



八戸における農民の農作業、習慣にはどのようなものがあつたのでしょうか。著者の館花久二男さんが、戦前の農村生活について自身の体験談や古老の話などを元書き下ろしました。

八戸での開墾・農作業

八戸の農作業はもともと畑作が中心で、大正時代に用水路が整備され大きく変化しました。昭和初期の開墾体験談も掲載されています。

農村に暮らす人々の日常

農家の人々は農作業以外の時間を使って、大工や砂利とりなどの副業を営んでいました。その他行なわれていた内職の様子を詳細に紹介します。

農村の年中行事

正月などの季節による行事はもちろん、オシラサマに関わる行事も盛り込まれています。

その他に農村の生活について、まだまだ数多くの事がよく分かります。

主な市内販売書店

伊吉書店(西店) TEL 0178-28-8211 木村書店(本店) TEL 0178-24-3366

カネイリ(番町店) TEL 0178-46-1812

「遠山家日記第一巻」「近代八戸地方の農村生活」は八戸市外の方も購入可能です。詳細は八戸市史編さん室(0178-73-3234)までお問い合わせください！